

ニュージーランド便り(その1) : オークランド市

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鮫島, 輝彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025629

ニュージーランド便り(その1)——オークランド市——

鮫島輝彦*

クリスマスが近付くと海岸道路のタマキドライブに沿って2 Km程もつづくポフツカワの並木に真赤な花が咲きだす。桜ほど一斉ではないが一、二週間のうちにどの木も花盛りになり、咲いた花は桜に似て一度に散る。タマキドライブのアスファルトの上は落花で真赤に染る。クリスマスフラワーとも呼ばれるこの花は細い針状弁でつばみは銀色でまた美しい。

大学は11月一杯で休に入る。小中学校は12月16日まで授業がある。クリスマス休暇は夏休みを兼ねる一年最長の休暇で大学の新学年は2月28日に始まるから実に3ヶ月も続く。小中学校は2月初めには始まる。オークランド大の学生達は暮は大抵アルバイトなどをして市内に居るがポフツカワの花の散る頃には主として海岸にある避暑地に散ってしまう。

人口約70万。オークランド市は東西両側をワイテマタ湾とマヌカウ湾に扼された細い地峡のうえに発達した町である。北方へはワイテマタ湾の入口に巨大橋、ハーバーブリッジを掛けてノースショアの新市域が急速に発達しつつあり、西方と南方へは数十キロメートルの遠くまで郊外住宅域が伸展しつつある。

オークランド市の地質の特性はなんといっても火山の町、大小の岩滓丘小火山が町中に散在し、それらの中で親格のランギトート島が、海拔280 mとさして高くはないが美しい富士山型の姿を東北側海上に浮べる。

これらの火山についてはオークランド大名譽教授のサール氏が20年間にわたり調査、数編の論文を書きまたそれらの成果を綜括した単行本「City of Volcanoes」が発行された。今この本は絶版中で入手できないが再版計画が進んでいるので本年内には発売されよう。

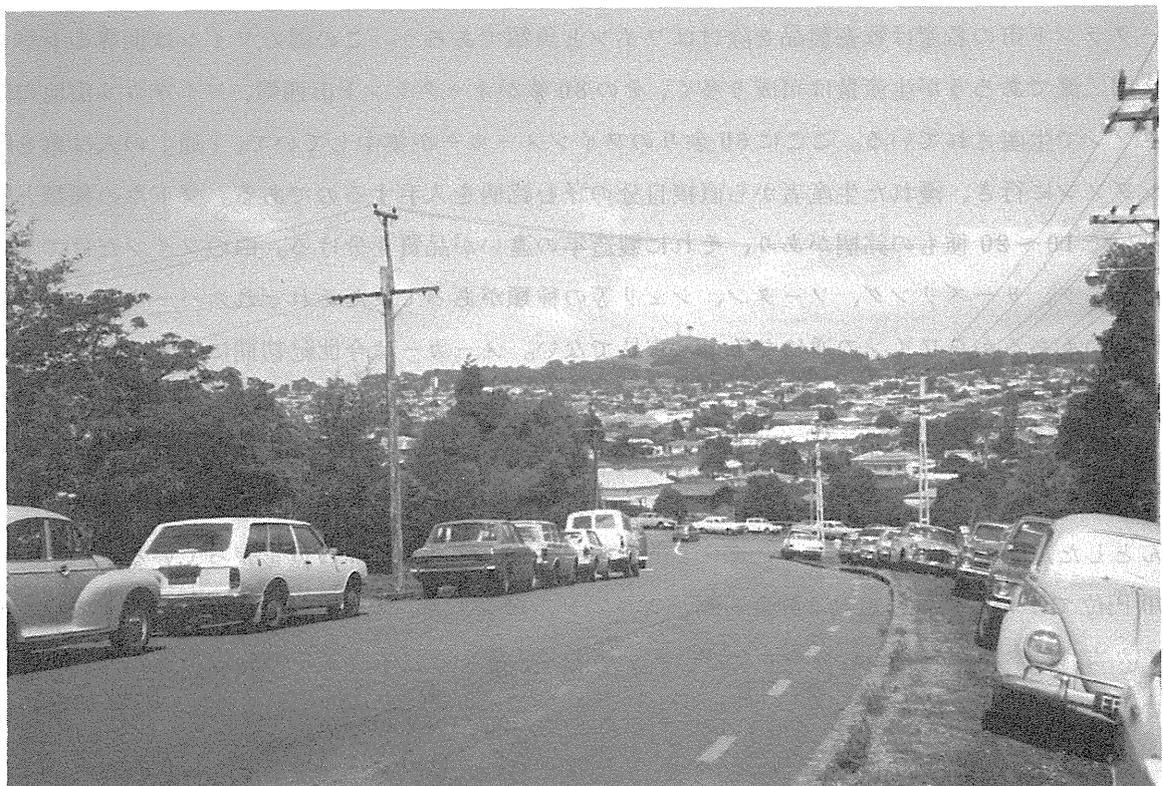
オークランド市の火山は基盤のジュラ紀層のグレイワケ、それを覆う中新統のフリッソ堆積物より成るワイテマタ層群を貫いて噴出している。溶岩流を伴わない岩滓丘、溶岩流を伴う大型岩滓丘、マールおよびこれらの中間型の火山が認められる。サール氏は小数のC¹⁴年代測定値と、山体の浸食の程度から噴火の時期を5万年前～数百年前と推定。最も新しい活動はランギトート島の一・二の溶岩流で測定されたC¹⁴年代、750年および250年前で示される。実際ランギトート島の山腹を覆う溶岩流はこの地の亜熱帯性海洋気候にもかかわらず、伊豆大島の歴史時代の溶岩流と同程度の植生しかなく、マオリ族の口碑に残る噴火も真実であろうと感ぜられる。この島は直径約3 Kmの円形で全域が国指定のリザーブ(自然保護地域)となっていて、住民はいない。

市内の最高点(196 m)をなすイーデン山は多量の溶岩を西北方に流下し、その先端はワイテマタ湾に流れ込んでブラックリーフと呼ばれる長く突出した礁をなし、ここは噴出口のイーデン山から10 Kmにも達している。美しい山形、見事に保存された山頂火口などから想像されるよりもイーデン山のC¹⁴年代は古く、16,800年とされている。

*オークランド大学地質学教室名誉客員研究員



ランギート島



ワントリーヒル

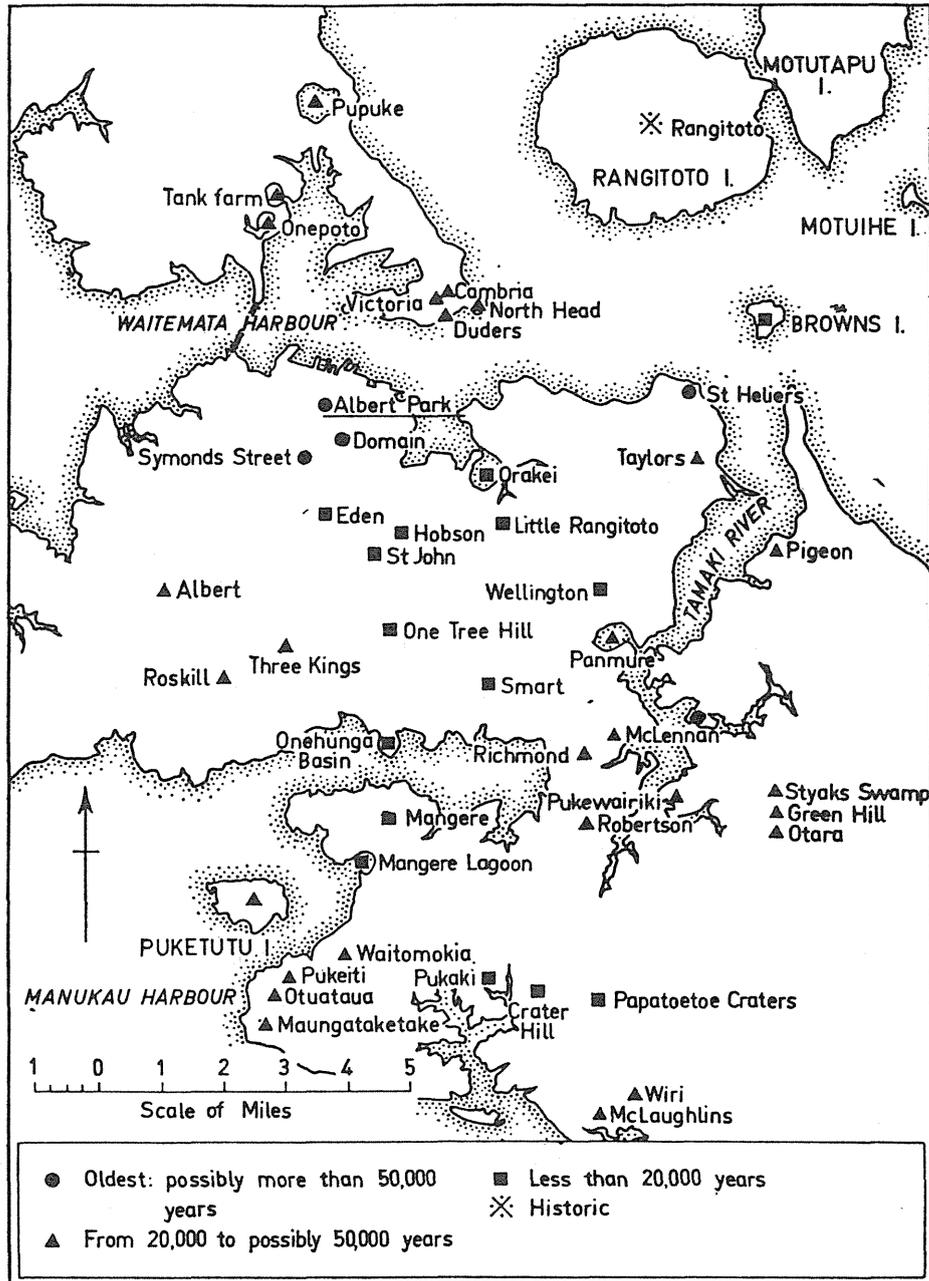
イーデン山の3 km南にワントリーヒルがある。海拔182 mで市内の第2の高点をなし、名の示すように一本の松の木と、高いオベリスクが山頂に立っている。山頂部はマオリが要塞として使用したため段々にけずり取られているが3個の噴火口はなおほぼ原型をとどめている。この山の周囲は数十万坪のコンウォール公園になっている。市内には大小100以上の公園があるがこれはそれらのうちでも最大で、大き過ぎて歩いて横断するのに20分も掛る程で、町を分断して不便でさえある。

この他ホブソン山、セントジョーンズ山、アルバート山、ロスキル山、ウェリントン山、スリーキングス、スマート山、テイラー山などの小丘、パナムア・ベイズンとオラケイ・ベイズンのマールが市中にある。ノースショアにはビクトリア山、ノースヘッドなどの小丘、ププケ湖、オネポト、タンクファームなどの大型のマールがある。これらにもっと小さい小丘や南郊の十数個の小丘火山を加えると噴出口の総数は50に達する。

サール教授によるとこれらの火山の溶岩は珪酸分45%~52%で一般にノルム霞石10%内外が算出されるアルカリオリビン玄武岩であるという。筆者が最近X線回折計で調べた所ではほとんどの溶岩に霞石が含有されており、ベイサナイトに属するものであることが知られた。ただしワントリーヒルの溶岩は珪酸に富みノルムにもモードにも霞石が含まれない。オークランド市のこのアルカリ玄武岩がどうして生じたか、弧状列島型火山活動の名残なのかまたはホットスポットの活動なのか、議論は結着していない。

市の西方には一寸日本平に姿の似た丘陵性山地があつてワイタカリ山地と呼ばれる。枕状溶岩を含む基性火山岩、凝灰岩類で構成され、ワイテマタ層群の上部を代表する。K-A年代16 m.y.が与えられ、局部的に熱水変質を受けて沸石、方沸石、フィリップス沸石などが生じている。大崩海岸の岩石と様子が似ているがここのはアルカリ岩でなくて高アルミナ玄武岩に属する。

オークランド市の名産は牧畜製品を除けばワインと魚類であろう。この国のワインは世界のレベルからいえば二流であろうが生産量は可成り多く、その80%がオークランド市西郊、ワイタカリ山地の麓のヘンダソンで生産されている。ここに60余りのワインメーカーが集中していて、「通」の人は車を駆ってヘンダソンに行き、優れた生産者から直接自分の好む銘柄を入手するのである。ブドウの種類と醸造法の違いで10~20種もの銘柄があり、それに製造年の違いが品質を分ける。白のワインだけでも、モゼル、ホック、リーズリング、ソータン、シェリ等の種類があつてまたそれぞれスパークリング(発泡性)のものもあるからワインの通になるのは容易でない。メーカーは今世紀初期に定着したユーゴスラブ人が主で他にレバノン人やフランス人などもやっている。年間生産量は45,000キロリットル位で、静岡県と同じ305万人の総人口から見れば相当の量であり、しかも隣国のオーストラリアとヨーロッパの良質ワインも可成り輸入されている。魚はマオリ族が昔から好んで食べた故かイギリスなどと違ってちゃんとした魚屋が多くあつてオークランド市近在で採れた極めて新鮮な魚を売っている。1 Kg 500円~700円位でサシミで食べられる鮮度の鯛、シマアジ、アジ、カツオ、ヒラメ、サバ、ブリそれにうなぎ、イカまれにタコが買える。マグロだけは入手至難で入港した日本魚船から分けて貰わないと食べられない。



オークランド市域の火山の分布
 E. J. SEARLE "City of Volcanoes" 1967 より
 オークランド大学はAlbert Parkの位置にあり
 その北がダウンタウン

